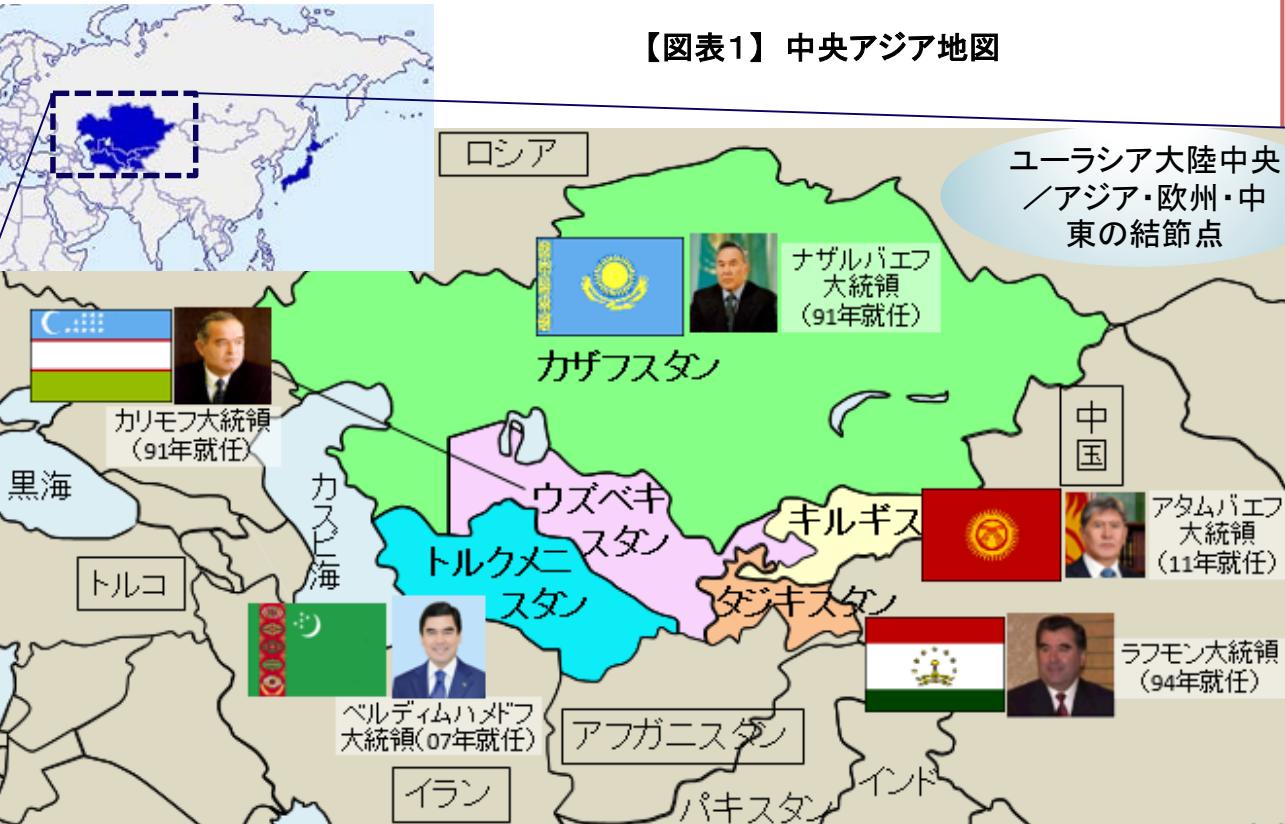


1. 中央アジアの概要

- 1991年、旧ソ連から独立。現在もロシアとの関係は深い。他方、近年、中国が経済面での存在感を増す。EUは貿易面で一定の存在感。
- 2000年以降、資源豊富な国とそれ以外で経済格差が拡大【図表2、3】。
- ビジネス環境には依然課題は多いが、老朽化インフラの更新・新設等のニーズは膨大であり、インフラ分野でのビジネスは近年増加。
- 地政学的に重要なこの地域への我が国の関与は重要。大統領権限が強く、トップセールスは重要。なお、中央アジアは全般的に親日的。
- ✓トルクメニスタン：天然ガスが豊富（埋蔵量世界4位）。天然ガスの高付加価値化へのニーズ大。
- ✓ウズベキスタン：域内最大の人口（3000万人）。国内産石油・ガスの有効利用が課題。
- ✓カザフスタン：石油・ウランが豊富。1人当たりGDPは1万ドルを超える。
- ✓キルギス・タジキスタン：資源に乏しく、ロシアへの出稼ぎ等に依存。

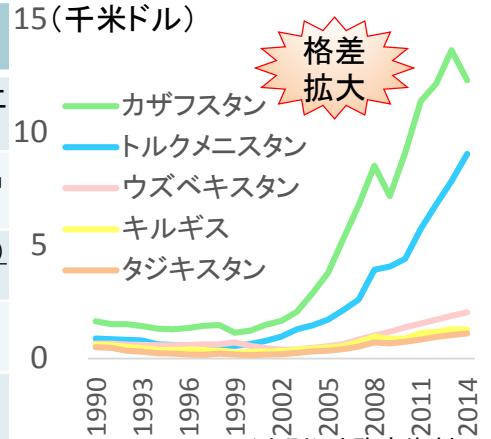
【図表1】中央アジア地図



【図表2】中央アジア5か国の基礎情報 (出所)外務省資料

	人口 (百万人)	GDP (億ドル)	面積 (日本比)	代表的な産業
トルクメニスタン	5.3	479	1.3倍	鉱業(ガス)、ガス加工 農業・牧畜業
ウズベキスタン	29.3	626	1.2倍	繊維(綿)、農業・食品加工、 鉱業(ガス等)
カザフスタン	16.6	2,123	7.2倍	鉱業(石油、ウラン等) 農業、金属加工
キルギス	5.6	74	0.5倍	農業・牧畜業、鉱業(金)
タジキスタン	8.4	92	0.4倍	アルミニウム生産、水力発電、 農業

【図表3】一人当たりGDPの推移 15(千ドル)

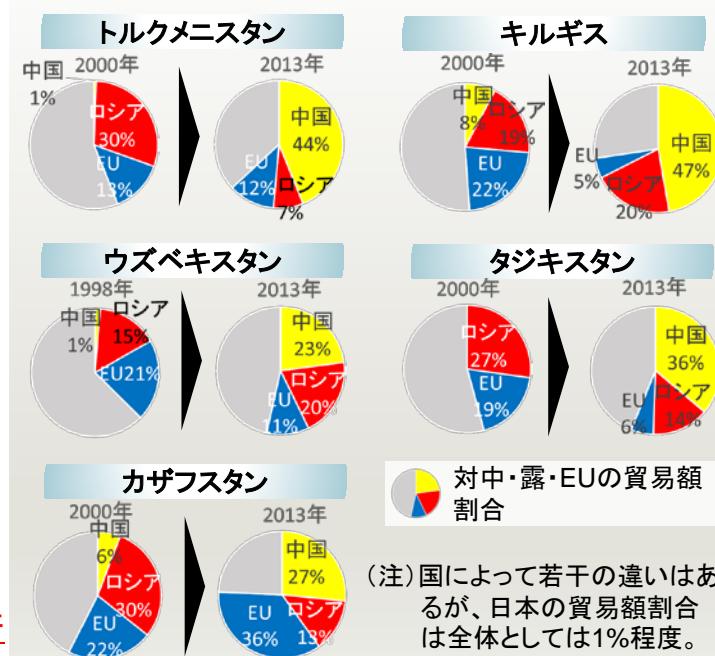


2. 激変する地域情勢

(1)中国の躍進:

- 最大の貿易相手国:
- ✓2005年以降、中国はパイプラインを敷設し石油・ガスの輸入を拡大。
 - 中国の輸入天然ガスの約4割はトルクメニスタンからの調達。
 - カザフスタンの油田権益の約25%を中国が保有。
- ➡多くの国で、今や中国は最大の貿易相手国【図表4】。

【図表4】中央アジア諸国の対外貿易関係



●「一帯一路」構想の提唱【図表5、6】:

- ✓中国と中央アジア諸国のインフラ連結性等をうたう「シルクロード経済ベルト」と「21世紀海上シルクロード」から構成(想定総投資額:約740兆円(報道ベース))。
- ✓自国内の余剰生産能力を吸収する市場の獲得や新疆ウイグル自治区等の内陸部開発といった中国の利益に合致。
- ✓構想実現のため、アジアインフラ投資銀行(AIIB)やシルクロード基金等を活用。
- 上海協力機構の推進:
 - ✓中国、ロシア、(トルクメニスタンを除く)中央アジア4か国が加盟。従来、安全保障中心だったが、近年、インフラ整備等の経済協力にまでスコープを拡大。インド・パキスタンの加盟手続きも開始され、勢力拡大の方向。

【図表5】「一帯一路」の概念図



【図表6】AIIBとシルクロード基金の比較

	AIIB	シルクロード基金
資本金	1,000億米ドル	100億米ドル (400億米ドルまで増資予定)
出資者	中国(30%) 他56か国	中国100% (中銀・政府系銀行等)
業務	投融资	投融资
運営	理事会(非常駐)等で意思決定	中国独自の判断で投融资実行
案件	未定	15年4月、パキスタンの水力発電案件(16.5億米ドル)で第1号の投融资

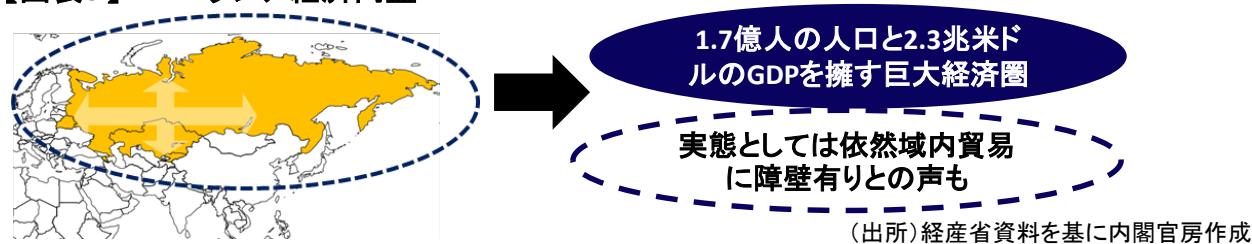
(2)ロシアの巻き返し:

●**ユーラシア経済同盟(EEU)の推進:**

✓プーチン大統領の主導の下、本年1月発足。ロシア、カザフスタン、ベラルーシ、アルメニア、キルギスが加盟。単一経済圏の実現により、中央アジア等旧ソ連圏の経済再統合を目指す【図表7】。

➡西欧諸国の対ロシア制裁とルーブル下落の影響で加盟国間には不協和音も。

【図表7】ユーラシア経済同盟



●**安全保障面**では、依然大きな影響力。

(3)EU:

●カザフスタンで石油・ガス田開発に多数参画。産業機械や重電等のビジネス面で一定の存在感。中央アジアの人権にも関心あり。

(4)米国:

●2014年7月、米軍が中央アジアから完全撤収。

(5)アジア諸国:

●韓国:ソ連時代に強制移住させられた朝鮮人ネットワークも活用し、インフラ、プラント、エネルギー資源、自動車など多角的に進出。

●トルコ:同じテュルク語系民族の国として、トルクメニスタン等を中心に建設企業等が高い存在感。

●インド:エネルギー調達多様化の観点から、パイプライン等を通じたトルクメニスタンからのガス調達に高い関心。上海協力機構への加盟手続き開始。

●イラン:経済制裁解除に伴い、域外市場への新たな出口としての可能性。

3. インフラ案件推進のための課題・対応の方向性

<中央アジアのインフラ整備を取り巻く状況>

●資源国を中心に、旧ソ連時代の**老朽化インフラの更新**や**新設のニーズは膨大**。商社・エンジニアリング・重電等の企業によるインフラ関係での商機は近年増加。

●**脆弱な物流インフラ**や不安定な法制度・許認可手続等は、外国企業の大きな投資障害となっており、我が国製造業・サービス業の進出は依然低水準【図表8】。

【図表8】世銀による投資環境評価(Doing Business 2015)と進出日系企業拠点数

	Doing Business 2015		日系企業拠点数
	総合	貿易しやすさ	
カザフスタン	77位	185位	43拠点
キルギス	102位	183位	6拠点
ウズベキスタン	141位	189位	17拠点
タジキスタン	166位	188位	2拠点
トルクメニスタン	調査対象外		3拠点

(注1)世銀Doing Business 2015は189か国・地域が対象。「貿易しやすさ」は所要の時間や費用等を評価したもの。

(注2)我が国製造業の進出例としては、トヨタ車組立(カザフスタン)、いすゞブランドの小型トラック・バス製造(ウズベキスタン)など。

(出所)世界銀行、外務省

<我が国としての対応の方向性(総論)>

●ロシア、中国が非常に大きな影響力をもつ中、インフラ輸出を含めた我が国の関与は重要。中央アジア側も期待。

●各国毎に経済の発展段階やニーズは異なる。質の高いインフラや豊富な公的支援ツールなどの我が国の強みを活かし、**国別にアプローチ**することが必要【図表9】。

●各国とも大統領の権限が強く、要人往来の機会を捉えた**トップセールスはインフラ案件の受注の鍵**。

【図表9】円借款供与条件表上の所得階層区分とODA等の公的支援メニュー

	所得階層区分	ODA等の公的支援メニュー
カザフスタン	卒業移行国	公的金融中心(円借款は戦略的意義が認められる場合)
トルクメニスタン	中進国	公的金融中心(円借款は選好せず)
ウズベキスタン	低所得国	円借款中心/公的金融も併用
キルギス	低所得国	無償・技協中心/円借款も併用
タジキスタン	貧困国	無償・技協中心

(出所)JICA資料を基に内閣官房作成

(1)トルクメニスタン

ベルディムハメドフ大統領



- 天然ガス**の中国向け輸出に大きく依存。
➡輸出先の多角化、ガスの**高付加価値化**へのニーズ大。
- 大統領の権限が極めて強く**、トップセールスの重要性が高い。

①天然ガスの高付加価値化支援

【図表10】主要なガス化学プラント商談

- ✓我が国企業が近年受注・建設したガス化学プラントの質の高さは**大統領の高い信頼**を獲得。
➡ガスの有効利用に関する**ガスマスタープラン**の実施や、更なるガス化学プラントの引き合いに結実【図表10】。

案件名
JAPAN-GTL(Gas to Liquid)プラント
ガルクィヌイシ・ガス処理プラント

(出所)経産省資料を基に内閣官房作成

- ✓**ガルクィヌイシ・ガス処理プラント**は、現在計画中のパイプラインを通じ、ガス輸出先の多角化にも貢献【図表11】。

【図表11】主要なガス輸出ルート



(出所)各種資料を基に内閣官房作成

②その他分野での質の高いインフラ推進

- ✓我が国技術への高い信頼を背景に、先方の協力期待分野は鉄道分野のF/Sや、従前は米GE社の牙城であった**ガス火力発電所**にまで拡大。

(2)ウズベキスタン

カリモフ大統領



- 5か国中最大の人口を誇り、歴史遺産も多数擁す大国。
- 国家主導の経済開発で**産業高度化**を目指す。不十分な電力インフラの整備が課題。
- 我が国ODAを高く評価し、2019年までの5か年計画でも我が国への期待に言及。

①電力セクターへの包括的支援

✓ 複数案件への迅速な供与を可能とする**円借款「セクター・プロジェクト・ローン(SPL)」**の供与(約868億円)に加え、マスタープラン作成や人材育成等も組み合わせ、**包括的な電力インフラ整備支援**を推進。

電力SPL:868億円

- トゥラクルガン火力発電所建設
- タシケント熱電併給所建設
- 電力セクター能力強化

(出所)JICA資料

日・ウズベキスタンICTセミナーの様相



(出所)総務省資料

②情報通信分野での包括的支援

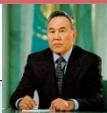
✓ 2014年に**ICT分野での包括的な協力覚書**を取り交わし、セミナー等を実施。個別案件でも光伝送ネットワーク整備について契約交渉中。

③産業高度化支援

✓ アンモニア・尿素製造プラントを建設予定。

(3)カザフスタン

ナザルバエフ大統領



- 資源依存型経済から脱却すべく**産業多角化**に努力。
 - ➔ 高品質機器の導入や産業人材育成のニーズ大。
- 所得水準が向上し、消費財・サービスへの需要増。投資環境も大きく改善。
 - ➔ ロシア、中国、欧米企業とも**競争は激化**。

①原子力分野での協力

✓ これまで我が国は、ナザルバエフ大統領からの新規原発建設に係る協力要請を受け、世界の原子力安全の向上や原子力の平和利用に貢献すべく、原子力分野での人材育成協力を実施。

人材育成協力の模様



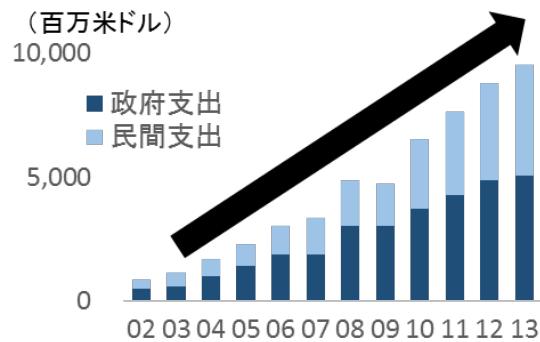
(出所)経産省資料

②医療分野での協力

✓ 所得水準の向上に伴い、近年**医療サービスの需要が急増**。政府支出も増大【図表12】。

➔カザフスタン側とともに**日本式診断(人間ドック)センター**を設立(2016年夏開業予定)し、我が国ならではの予防医療を人材育成とセットで推進。地方都市や近隣国への展開も視野。

【図表12】カザフスタンにおける医療費の推移



③交通・物流分野での協力

✓ 質の高い交通インフラに関する経験・知識の共有や人材育成、協力案件の共同発掘等に関する覚書の先方政府との締結を予定。

(4)キルギス／タジキスタン

アタムバエフ大統領



(キルギス)

ラフモン大統領



(タジキスタン)

- 金や水(発電)以外に天然資源は乏しく、ロシアへの出稼ぎ労働者からの送金や各国・国際機関からの援助等に大きく依存する経済。
- 山岳地帯に位置し、**脆弱な物流インフラ**が経済活動を大きく制約。
- アフガニスタンと接するタジキスタンはテロ・過激主義との戦いの最前線。

物流インフラ整備支援

✓ キルギス・タジキスタンでは、山岳地帯を通る国際幹線道路の老朽化が顕著。

➔我が国ならではの「**道路防災**」の観点から、地滑り対策等の防災工事と道路維持管理人材の育成をセットで支援。

➔ADBや世銀等も支援に動く中、我が国の強みを活かして「**質の高いインフラ投資**」を推進、**域内連結性の向上**に貢献。

老朽化した橋の状況 (過去の泥流による損傷が激しい)



(出所)JICA、国交省

(5)地域共通の課題への関与

①高度産業人材の育成支援

✓ カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスでは「**日本人材開発センター**」を設置し、ビジネス人材育成、日本語コースや相互理解促進事業等を実施中。

➔これらの修了者数は17万人以上。親日観の醸成に大きく貢献。

✓ 地域の複数国を対象にした招聘研修では、地域共通の課題(防災、農業、地域振興、保健等)に焦点を当て、研修参加国同士のネットワーク強化にも貢献。

日本人材開発センターでの研修模様



(出所)JICA資料

②我が国企業の現地でのビジネス展開促進

✓ 国有企業が経済の中心を占める中央アジアでは我が国企業のビジネス経験は不足。ビジネス環境整備や継続的な案件形成に向けた各種枠組みへの期待は高い。

➔トルクメニスタン、ウズベキスタン、カザフスタンとの**二国間経済委員会**(既設)に加え、本年、我が国はウズベキスタンとカザフスタンとの間で**質の高いインフラ(都市等)に関する官民合同会議**を実施。今後、官民一体となった案件発掘を推進。

③農業分野での支援

✓ 2004年より5か国と外相級で「**中央アジア+日本**」対話を実施。2014年7月の第5回会合では「**農業分野地域協力ロードマップ**」を採択。

➔灌漑施設更新等を通じた水の有効管理やオペレーションノウハウなど、我が国ならではの技術を活かした包括的支援を推進。